

## 第5章 施策の展開（概要）

【基本理念】みんなが笑顔で 生き生きと 食べつなぎ いのちつなぐ 健康のまちおおつ

【基本目標】健康寿命の延伸と健康格差の縮小

基本方針	1 個人の行動と健康状態の改善	基本施策	(1) 生活習慣の改善	目指す姿	健康を維持するための生活習慣に取り組むことができる
分野	関連データ	現状と課題			取り組みのポイント
栄養・食生活	資料2 P21～26 参考資料2 P1、3、4	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育への関心は高まっていますが、朝食の欠食、塩分の摂りすぎ、野菜摂取量の不足などバランスを欠いた食生活を送る人の増加、やせや肥満、高齢者の低栄養など、食に起因する課題が見られます。引き続き食生活の改善に取り組む必要があります。</li> <li>引き続き健康を維持するための適切な食事内容や量について啓発を行い、実践を後押しするとともに、無関心層へのアプローチも必要です。</li> <li>多様な家族形態や生活観があり、食事スタイルも多様化していることを考慮する必要があります。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ライフステージに合わせた食の大切さ・望ましい食生活についての啓発</li> <li>朝食摂取の啓発</li> <li>学校・職域における食育の推進、肥満の予防</li> </ul>
身体活動・運動	資料2 P27、28 参考資料2 P1	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォン等 ICT 機器の普及による生活スタイルの変化や外出機会の減少等により、特に若い世代において、運動習慣のない人の割合が多い傾向があります。子どもにおいては、体力や運動時間の低下傾向も見られます。</li> <li>成人においては、意識的に運動に取り組む人は性別や年代を問わず増加傾向にあります。一方で運動習慣のある人とない人の健康格差が広がることが懸念されます。</li> <li>新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響による外出機会の減少等によるフレイルや認知症の進行が懸念されます。高齢期における積極的な地域活動への参加の促進や、仲間と意識的に体を動かすことのできる環境整備が必要です。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の有効性の理解促進</li> <li>学校・職域における運動習慣に関する啓発の推進</li> <li>スポーツに関する情報提供の強化</li> <li>介護予防の普及啓発とハイリスク者への指導（通いの場の確保やニーズに合わせたプログラムなど）</li> </ul>
休養・睡眠	資料2 P29 参考資料2 P1	<ul style="list-style-type: none"> <li>睡眠を十分に取れていない人の割合は増加しています。睡眠による休養がとれていない人ほど、ストレスがあると回答した割合が高い結果となっています。</li> <li>スマートフォン等の利用により、睡眠時間の減少や睡眠の質の低下をきたしていることも成人が増加しています。</li> <li>十分な睡眠による休養をとることは、こころの健康の保持にもつながるため、適切な休養と睡眠をとることについての理解促進が必要です。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な休養・睡眠に関する普及啓発</li> <li>ワーク・ライフ・バランスに関する理解と取り組みの推進</li> </ul>
飲酒	資料2 P30 参考資料2 P2	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性は20歳未満において飲酒する人の割合が横ばいとなっています。</li> <li>女性については妊娠後も飲酒している人の割合が、増加傾向にあります。</li> <li>生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合は、男性では減少傾向ですが、女性において増加しています。</li> <li>引き続き飲酒が自身の健康や、妊娠期、授乳期に及ぼす影響を知り適正な飲酒についての理解と行動変容につなげることが必要です。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な飲酒について理解促進</li> <li>妊婦・産婦に対する保健指導</li> </ul>
喫煙	資料2 P31、32 参考資料2 P2	<ul style="list-style-type: none"> <li>20歳未満の人や成人の喫煙率、また受動喫煙の機会を有する人の割合は改善傾向ですが、子どもへの受動喫煙防止対策を行う人の割合は横ばいであることから、引き続き受動喫煙防止の取組を推進していく必要があります。</li> <li>妊娠後も喫煙している人の割合は横ばいとなり、引き続きたばこが健康に及ぼす影響についての理解促進を図る必要があります。</li> <li>イエローグリーンリボン（望まない受動喫煙防止）運動の周知率が低くなっています。</li> <li>路上喫煙等禁止区域内での路上喫煙に対し一定の成果がみられ、受動喫煙の防止に繋がっています。引き続きたばこの煙を吸わない環境づくりが必要です。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>妊婦・産婦に対する保健指導</li> <li>学校における指導</li> <li>20歳未満に向けた啓発</li> <li>受動喫煙防止のための啓発及び環境づくりの推進</li> </ul>
歯・口腔の健康	資料2 P33～35 参考資料2 P2	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民アンケート調査では、健康状態が「よくない」という回答が増加するにつれ、自分の歯が20本未満の割合が高くなる傾向があります。</li> <li>子どもについては、全体として歯のない子どもの割合は減っていますが、多数むし歯がある子どもが一定数います。低年齢からの歯磨き習慣を身につける取組が必要です。</li> <li>進行した歯周疾患に罹患している人の割合は増加しています。成人の歯周病の発症・重症化予防について、引き続き取組の強化が必要です。</li> <li>高齢期においては、自分の歯をより多く有する人の増加に伴い、根面う蝕（歯の付け根のむし歯）への対応が課題です。また、口腔機能の低下への対策も必要です。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児期からの口腔ケアの推進</li> <li>歯科検診受診促進</li> <li>歯周病の発症予防・重症化予防啓発</li> <li>オーラルフレイル知識の普及及び口腔機能低下の予防</li> </ul>

基本方針	1 個人の行動と健康状態の改善	基本施策	(2) 生活習慣病の発症予防と重症化予防	目指す姿	病気の予防に取り組むと共に病気があっても重症化することなく過ごすことができる
------	-----------------	------	----------------------	------	--

分野	関連データ	現状と課題	取り組みのポイント
がん	資料2 P10～12 P36～39 参考資料2 P2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・75歳未満のがんの年齢調整死亡率については改善してきており、がん対策における一定の成果が出ているものと思われませんが、早期発見、早期治療のために、全体としてさらなる受診率の向上が必要です。</li> <li>・がんで療養が必要となった時に仕事の継続が困難になることが多くなっています。働く世代のがん検診の受診機会の増加や、仕事と治療の両立支援を推進する必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がんに関する正しい知識普及</li> <li>○がん検診の受診及び精密検査の受診促進</li> <li>○がん検診を受診しやすい環境の整備</li> <li>○「がんについて考える日」において様々な主体が啓発に取り組む</li> </ul>
循環器疾患	資料2 P9、11 P13、14 参考資料2 P1、3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳血管疾患、虚血性心疾患の年齢調整死亡率については男女ともに改善しています。一方で男女ともに高血圧の値は悪化しており、男性においては食塩の摂取量が悪化しています。</li> <li>・メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍は減少傾向ですが、高血圧の値は悪化していることや40～64歳の男性の肥満は増加していることから、引き続き発症予防や重症化予防の取り組みが必要です。</li> <li>・特定健診の結果において血圧やコレステロール等で要医療となった人が受診に結びつかないケースが見受けられることから、その受診促進や、妊娠高血圧発症者へのフォローも重要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○循環器疾患に関する正しい知識の普及</li> <li>○特定健診の受診及び保健指導の実施率の向上</li> <li>○健康相談しやすい環境の整備</li> </ul>
糖尿病	資料2 P26 参考資料2 P1、3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍、血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合は改善傾向です。40～64歳の男性の肥満は増加しており、引き続き発症予防や重症化予防の取り組みが必要です。</li> <li>・HbA1cが血糖コントロール状態の目安となる値であることや、糖尿病と腎臓病や透析には深い関連性があることの啓発が必要です。</li> <li>・特定健診の受診勧奨や保健指導の拡充等、より一層啓発する必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○糖尿病に関する正しい知識の普及</li> <li>○特定健診の受診及び保健指導の実施率の向上</li> <li>○健康相談しやすい環境の整備</li> </ul>
COPD	資料2 P31、32、 40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケート調査において、COPDについて「知らない」人の割合は、65.2%となっています。</li> <li>・COPDの発症予防と進行の阻止は禁煙によって可能であるため、COPDの認知度の向上も含め、早期の禁煙を推進していく必要があります。</li> <li>・成人の喫煙率は男女ともに改善していますが、特に改善幅の小さい女性への取組や妊婦・産婦に対して、引き続き保健指導を強化する必要があります。</li> <li>・検診受診率、精密検査受診率をさらに向上させることで、早期がんの発見、早期の治療開始につなげていく必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○COPDに関する正しい知識の普及</li> <li>○肺がん結核検診の受診率向上</li> <li>○健康相談しやすい環境の整備</li> <li>○妊婦・産婦に対する保健指導の強化</li> <li>○喫煙対策の推進</li> </ul>

基本方針	1 個人の行動と健康状態の改善	基本施策	(3) 生活機能の維持・向上	目指す姿	心身の健康を保持することで生活機能の維持向上を図ることができる
------	-----------------	------	----------------	------	---------------------------------

分野	関連データ	現状と課題	取り組みのポイント
ロコモ・骨粗鬆症	資料2 P27、28、 53、54	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケート調査において、ロコモティブシンドロームについて「知らない」人の割合は、63.2%となっています。</li> <li>・転倒リスクのある高齢者の割合が33.3%となっており、運動機能の維持向上や適切な栄養摂取等の予防が必要です。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、高齢者の通いの場や出前講座の開催が減少しており、地域における活動の回復が課題です。</li> <li>・保健事業と介護予防を一体化した事業の創設、通いの場や出前講座の充実等、高齢者の増加やニーズの多様化に対応したさらなる取組が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護予防に関する知識の普及とハイリスク者への指導</li> <li>○サロン等での転倒予防に関する啓発</li> <li>○高齢者の適切な栄養摂取に関する啓発</li> </ul>
こころの健康	資料2 P42～44	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや不登校、児童虐待、ヤングケアラーといったこどもの抱える様々な課題に対応できるよう、こども支援コーディネーターを配置するなど支援体制を構築していますが、一人ひとりにきめ細かな支援ができるよう引き続き取組を推進する必要があります。また、地域と市との協働により、こどもの見守り活動を推進することも求められます。</li> <li>・自殺者数はやや減少傾向で推移していましたが、令和元年度以降は横ばいとなっています。以前は高齢者が多い傾向でしたが、近年若年化傾向にあります。各ライフステージに応じたメンタルヘルス対策が必要です。</li> <li>・男女ともに働く世代でストレスを感じている人は多く、事業者と連携したメンタルヘルス対策の強化が必要です。また、父親の育児休業の増加を踏まえ、父母のメンタルヘルス対策も盛り込んだ子育て支援の取組が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各ライフステージの課題に応じたメンタルヘルス対策</li> <li>○産後うつに関する支援</li> <li>○労働者のメンタルヘルスにおける地域・職域連携</li> <li>○ワーク・ライフ・バランスの理解・取り組みの推進</li> <li>○支援の必要な人がスムーズに相談窓口にアクセスできる体制整備</li> </ul>

基本方針	2 心身の健康と食環境を支える食育の推進	基本施策	食環境の改善と食文化の継承	目指す姿	食環境や食文化を意識し、健全な食生活を実践することができる
------	----------------------	------	---------------	------	-------------------------------

分野	関連データ	現状と課題	取り組みのポイント
食環境の改善	資料 2 P45～P47 参考資料 2 P4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林漁業の体験や食の知識に関する関連事業へ参加する市民や、環境に配慮した食生活を送る市民の割合は年々増加しており、食育への関心は高まってきています。</li> <li>・市民アンケートにおいては、「残さず食べる」、「賞味期限が過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分でたべられるか判断する」、「冷凍保存を活用する」など食品ロスに取り組んでいる人が多くなっています。</li> <li>・食品ロス削減について、年代や性別を問わず多くの市民が意識できるよう、引き続き家庭での買い物や調理のポイントなど、具体的な方法を普及啓発していくことが必要です。また、子どもたちが体験学習等で得た知識を実践に結びつける工夫が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食育、地産地消の啓発・推進</li> <li>○食品ロス削減</li> </ul>
食文化の継承	資料 2 P4 8 参考資料 2 P4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケートにおいて、食文化を伝承する市民の割合は増加傾向にありますが、郷土料理や伝統料理を食べる頻度は少ない現状となっています。</li> <li>・実践する市民のすそ野を広げる、市民と行政・団体をつなぐ担い手づくりのための周知や参加を促す工夫が必要です。またボランティアの活動だけでなく、一人ひとりの食育を推進する取り組みの強化が求められます。</li> <li>・食育の推進に関わるボランティアの人数が減少しており、ボランティアを増やすことだけでなく、社会構造の変化や高齢化の進展に合わせた活動への柔軟な支援を行っていく必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝統的食文化の継承についての取り組み</li> </ul>

基本方針	3 社会環境の質の向上	基本施策	社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上 自然に健康になれる環境づくり 誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備	目指す姿	一人ひとりが自分にあった健康な生活を送ることができる
------	-------------	------	---	------	----------------------------

分野	関連データ	現状と課題	取り組みのポイント
社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上	資料2 P21、42 P49、54	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や仲間との共食が難しい人や、地域とのかかわりをもつ機会が少なく孤立してしまう人がいます。</li> <li>・支援を必要とするこどもは増加しており、一人ひとりに対し、支援者との安心できる関係の中できめ細やかな支援を行うことが必要です。</li> <li>・働く世代へのメンタルヘルス対策の重要性や事業者へのワーク・ライフ・バランスの啓発を行い、働き方の見直しを推進していく必要があります。</li> <li>・高齢者が健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加したくなるきっかけづくりや通いの場の充実が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域における居場所やネットワークづくりの推進</li> <li>○働く世代の健康づくりに向けた職域連携の推進</li> </ul>
自然に健康になれる環境づくり	資料2 P27、28 P31、32 P51、52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの人の健康づくりのきっかけとなるべく、イベント等を活用したより効果的な啓発を検討する必要があります。</li> <li>・こどもの体力や運動時間は年々低下しています。</li> <li>・成人においては、意識的に運動に取り組む人は性別や年代を問わず増加傾向にありますが、一方で運動習慣のある人とない人の健康格差が広がる可能性があります。</li> <li>・各ライフステージのライフスタイルに応じた運動やスポーツに取り組みやすい環境整備が必要です。</li> <li>・学校給食等は食育の生きた教材であり、残さず食べることにより、誰もが自然と健康になれる食事となっています。</li> <li>・イエローグリーンリボン（望まない受動喫煙防止）運動の周知率が低くなっています。</li> <li>・路上喫煙等禁止区域内での路上喫煙に対し一定の成果がみられ、受動喫煙の防止に繋がっています。引き続き、たばこの煙を吸わない環境づくりが必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○受動喫煙を防止するための環境整備</li> <li>○様々な媒体やネットワークを活用した効果的な情報発信</li> <li>○安心して運動ができる環境整備</li> <li>○運動やスポーツに取り組みやすい環境整備</li> </ul>
誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備	資料2 P50 参考資料2 P3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康推進員をはじめ、健康づくりの担い手の高齢化や減少が進んでおり、担い手の確保や活動支援の方策の検討が必要です。</li> <li>・学校における健康づくりの取組を、関係団体との連携のもと進めていく必要があります。</li> <li>・「健康経営優良法人」の認定を受ける事業所や、健康に関心のある事業所が増えてきている中で、産業分野と連携した働く世代への健康づくりのための取組が必要です。</li> <li>・産業分野とのさらなる連携により、働く人の生活習慣病対策や治療と仕事の両立支援等に取り組む必要があります。また、高齢期の健康課題に応じた就労支援体制整備が必要です。</li> <li>・飲食店から他業種にわたる健康おおつ21応援団の増加や活性化に向けた取組、また地域の事業者と連携した、働く人のための生活習慣病対策やメンタルヘルスの取組など、民間事業者・団体と連携した健康づくりを推進することが必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な主体が、それぞれの強みを活かし健康づくりの情報発信や具体的な支援に取り組む。</li> <li>○健康おおつ21健康づくり応援団の取り組み拡大</li> <li>○健康経営や、その他保健事業に取り組む事業所との連携による健康づくりの取り組み</li> <li>○疾病の療養との両立支援や高齢者の特性に応じた就労支援体制整備</li> </ul>

基本方針	4 ライフコースアプローチを踏まえた生涯を通じた健康づくり	基本施策	(1) こどもの健康	目指す姿	乳幼児期から規則正しい生活習慣を身に付けることで、生涯を通じた健康づくりにつながる
------	-------------------------------	------	------------	------	---

分野	関連データ	現状と課題	取り組みのポイント
スポーツ こどもの運動	資料2 P51、52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びや運動時間は年々低下し、こどもの体力が低下しています。</li> <li>・各ライフステージのライフスタイルに応じた運動やスポーツに取り組みやすい環境整備が必要です。</li> </ul>	○安心して遊びや運動ができる環境整備
肥満傾向児	資料2 P8、52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の肥満割合は増加傾向です。</li> <li>・こどもの生活習慣は、その家族のライフスタイルと連動しており、子どもへの取組の推進とその保護者への取組をあわせて行うことが、望ましい生活習慣を身に付けるために必要です。また、学校での取組をはじめ、地域や関係機関と連携して取組を進める必要があります。</li> <li>・本市の全出生数中の低出生体重児の割合は横ばいであり、低出生体重児については、神経学的・身体的合併症の他、出生後に糖尿病や高血圧症などの生活習慣病や肥満になりやすいという報告もあり、発症予防についてのさらなる取組が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乳幼児期からの保健指導</li> <li>○低出生体重児の減少に向けた取組（女性の健康）</li> </ul>
飲酒・喫煙 20歳未満	参考資料2 P2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20歳未満の喫煙率は改善傾向となっておりますが、さらなる取組が必要です。</li> <li>・20歳未満の女性の飲酒率は改善傾向ですが、男性の飲酒率は横ばいとなっております。引き続き飲酒や喫煙が自身の健康に及ぼす影響の理解促進が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○適正な飲酒のありかたについて理解促進</li> <li>○受動喫煙防止のための啓発及び環境づくりの推進</li> <li>○学校における指導</li> </ul>

基本方針	4 ライフコースアプローチを踏まえた生涯を通じた健康づくり	基本施策	(2) 高齢者の健康	目指す姿	高齢になっても心身共に健康な状態を維持することで、生涯を通じた健康づくりにつながる
------	-------------------------------	------	------------	------	---

分野	関連データ	現状と課題	取り組みのポイント
高齢者 低栄養傾向	資料2 P26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低栄養傾向の高齢者の割合の増加の抑制はできていますが、低栄養が疑われる高齢者が9.4%となっております。</li> <li>・物価高騰など経済的な負担増加による、高齢者の買い控えによる栄養不足が懸念されます。</li> <li>・引き続き自分にあった適切な食事についての理解促進が必要です。低栄養はまだ認知度の低い問題でもあり、生活習慣病予防と併せて啓発を行っていく必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護予防に関する知識の普及とハイリスク者への指導</li> <li>○高齢者の適切な栄養摂取に関する啓発</li> </ul>
ロコモ	資料2 P27、28、 53、54	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間のスポーツジムなどが地域で増えたことにより、利用している高齢者と利用していない高齢者との健康格差が広がる可能性があります。</li> <li>・ロコモティブシンドロームについて「知らない」人の割合は、63.2%となっております。</li> <li>・保健事業と介護予防を一体化した事業の創設、通いの場や出前講座の充実等、高齢者の増加やニーズの多様化に対応したさらなる取組が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護予防に関する知識の普及とハイリスク者への指導</li> <li>○サロン等での転倒予防に関する啓発</li> <li>○安心して運動ができる環境整備</li> </ul>
社会活動 高齢者の	資料2 P54	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により外出する機会が少なくなったこと、またサロン等通いの場の活動の縮小や中止となったこと等により、以前に比べ人とのつながりが希薄となっております。</li> <li>・通いの場において、新たな利用者を増やし、多世代交流や健康寿命延伸のための取組を進めるため、活動の場を広げる支援が必要です。</li> <li>・高齢者の就労も増加しており、高齢者の特性に応じた就労環境の整備が必要となっております。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域における居場所やネットワークづくりの推進</li> <li>○疾病の療養との両立支援や高齢者の特性に応じた就労支援体制整備</li> </ul>

基本方針	4 ライフコースアプローチを踏まえた生涯を通じた健康づくり	基本施策	(3) 女性の健康	目指す姿	女性のライフステージごとの健康課題の解決を図ることで、生涯を通じた健康づくりにつながる
------	-------------------------------	------	-----------	------	---

分野	関連データ	現状と課題	取り組みのポイント
若年女性やせ	資料 2 P8、26 参考資料 2 P1、3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低出生体重児の要因の一つである若い女性のやせが多くなっています。</li> <li>・若い女性のダイエットによる貧血も課題です。</li> <li>・適正な栄養摂取の必要性及び適正量についての理解促進が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ライフステージに合わせた食の大切さ・望ましい食生活についての啓発</li> <li>○学校・職域における食育の推進</li> </ul>
骨粗鬆症	資料 2 P53	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転倒リスクのある高齢者の割合が 33.3%となっています。</li> <li>・骨粗しょう症予防のため、運動機能の維持向上や適切な栄養摂取等が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ライフステージに合わせた食の大切さ・望ましい食生活についての啓発</li> <li>○サロン等での転倒予防に関する啓発</li> <li>○安心して運動ができる環境整備</li> </ul>
女性の飲酒	資料 2 P30 参考資料 2 P2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合は、男性では減少傾向ですが、女性において増加しています。</li> <li>・妊娠後も飲酒している人の割合が、近年増加傾向にあります。</li> <li>・適正な飲酒についての啓発が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○適正な飲酒についての理解促進</li> <li>○妊婦・産婦に対する保健指導</li> </ul>
妊婦の喫煙	資料 2 P32 参考資料 2 P2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠後も喫煙している人の割合の推移は横ばいで 1.9%となっています。</li> <li>・たばこによる胎児、乳幼児への影響について、啓発するとともに禁煙を希望する人に対する支援が必要です。また、本人だけでなく家族や周囲の人に対してもたばこによる影響についての啓発を行い、受動喫煙を防止する必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○妊婦・産婦に対する保健指導</li> <li>○受動喫煙防止のための啓発及び環境づくりの推進</li> </ul>